

平成30年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	コミュニティバス運行助成事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	1	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	都市政策室			
施策	322利便性の高い公共交通体系の充実	担当課室長	仲田 政樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	市内5ルート週7日運行の利用状況や要望等を把握し、今後の改革・改善が可能な検討。	③平成30年度に取り組む改革・改善内容	平成29年11月に利用実態調査の実施により、把握した意見、要望及びコミュニティバス利用者の利便性について運行事業者と検討を行う。
②①に基づく取り組み結果	新しい運行から1年が経過した平成29年11月に利用実態調査を実施し、コミュニティバス利用者の意見、要望等を把握した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	交通不便地域の住民、高齢者を中心とした移動手段弱者	意図(対象をどうするのか)	交通手段の確保
②事務事業の概要	市内の交通不便地区における課題解消や公共施設等の使用促進を図るため、運行事業者への一部補助などにより公共交通網の充実を図るもの。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	週7日運行と高齢者の増加により利用客が増加する見込みで、今後、サービス向上(バス停のベンチや屋根の設置)が望まれる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	利用客数 123,932人(前年度比37.6%増)						
②成果を表す指標	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠	
	i	コミュニティバス利用者数	74,075	90,089	123,932	人	業務取得
	ii						
iii							
③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算(事業費)の主な内訳		平成30年度予算		
事業費(千円)	32,429	48,056	金額(千円)	内容	47,140		
国支出金(千円)			48,000	補助金			
県支出金(千円)			56	報償費			
市債その他(千円)	5,000	5,000			5,000		
一般財源(千円)	27,429	43,056			42,140		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	新ルートの運行から1年以上が経過し、運行ルート、バス停留所等の改善要望及びバスの老朽化対応など、運行事業者との連携や行政の役割について検討の必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	1低い	
③上記評価の理由	高齢化社会の対応として、地域活動や生涯学習などの参加からコミュニティバスの運行は必要不可欠であるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	補助金、利用実態調査を実施	平成29年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	補助金、利用実態調査を実施	48,140	48,140	当初	48,140	H28からの繰越	0
				H28⇒29繰越	0		
③達成状況	完了			補正	0	現年分	48,056
				流用・充当	0		
④未完了・非着手の理由		平成30年度への繰越額(単位:千円) 0					

平成30年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	北総鉄道耐震化助成事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	1	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	都市政策室			
施策	322利便性の高い公共交通体系の充実	担当課室長	仲田 政樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	高架橋柱補強 596本 橋脚補強 1基 落橋防止 14連	③平成30年度に取り組む改革・改善内容	平成29年度で事業完了
②①に基づく取組み結果	当初予定箇所の全てを実施し完了した。 高架橋柱補強 597本 落橋防止 14連		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	高架橋柱、橋脚、橋桁	意図(対象をどうするのか)	首都圏直下型地震等による高架構造物の倒壊を防ぐ
②事務事業の概要	首都圏直下型地震等の大規模地震に備えるとともに、北総鉄道を利用する市民及び鉄道施設付近に居住する市民等の安全を確保するため、国、県、沿線6市と協調し事業費を助成するもの。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	熊本での地震により、公共建築物、高架構造物の耐震性については、市民の関心が高まっていると考えられる。平成29年度には597本の柱補強、14連の橋の落橋防止工事を行い、補強工事が完了した。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	高架橋柱補強597本、落橋防止14連の工事に対し、鎌ヶ谷市負担分として27,465千円の補助を行った。					
②成果を表す指標	指標名称		平成27年度	平成28年度	平成29年度	算定根拠
	i	高架橋柱補強	374	504	597	本 業務取得
	ii	橋脚補強	2	0	0	基 業務取得
	iii	落橋防止	6.5	13.5	14	連 業務取得
③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算(事業費)の主な内訳		平成30年度予算	
事業費(千円)	23,224	27,465	金額(千円)	内容	0	
国支出金(千円)			27,465	補助金		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)						
一般財源(千円)	23,224	27,465				

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	平成27年度から平成29年度の3年で完成させる。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	1終了
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	首都圏直下型地震は、30年以内に70%程度の確率で起こると想定されており、対策を進めておく必要があった事業が完了したため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	補助金	平成29年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	補助金	27,723	27,723	当初	27,723	27,465	H28からの繰越	0
				H28⇒29繰越	0		現年分	27,465
③達成状況	完了			補正	0			
④未完了・非着手の理由				流用・充当	0			
		平成30年度への繰越額(単位:千円)						0

平成30年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	新京成線連続立体交差事業	会計	款	項目	多額 繰越	
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	一般	8	4	3	〇
施策	322利便性の高い公共交通体系の充実	担当課室	道路河川整備課			
		担当課室長	貞方 敦雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	計画下り線(津田沼方面 延長3,257m)について高架化を実施するとともに、都市交通の事業の進捗を図るため引き続き事業主体である千葉県及び関係機関と調整し必要な財源の確保を図る。	③平成30年度に取り組む改革・改善内容	全線高架化に向け、関係機関との調整を密にしながら事業を進める。
②①に基づく取り組み結果	下り線の高架化を実施し、事業主体である千葉県及び関係機関と調整を行い、必要な財源の確保を図った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	新京成線高架橋	意図(対象をどうするのか)	関係機関と調整し、高架を実現させる(地元負担金を支払う)。
②事務事業の概要	本市の東西を走る新京成線を高架化し、踏切遮断による交通渋滞や市街地の分断等を解消する目的で、県が事業主体となり事業を実施する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	新京成線の踏切遮断により交通渋滞が発生していることから、安全性、快適性のため踏切を早く除却する必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	津田沼方面下り線(延長3,257m)の高架化を実施した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i 用地取得率(取得済/用地面積)	100	100	100	%	業務取得
	ii 事業進捗率(事業費ベース)	84	72	78	%	業務取得
iii						
③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算(事業費)の主な内訳		平成30年度予算	
事業費(千円)	1,006,056	513,558	金額(千円)	内容	710,859	
国支出金(千円)			512,850	県事業への負担		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)	888,800	413,500			637,600	
一般財源(千円)	117,256	100,058			73,259	

IV 評価・検討

①課題	踏切による交通渋滞が多く、市街地が分断されている。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	市内道路の渋滞解消に向け、早期完成が必要であるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	負担金	平成29年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	県に負担金を支出した。	514,089	659,201	当初	514,089	H28からの繰越	112,400	
				H28⇒29繰越	112,400			
③達成状況	完了			補正	32,004	513,558	現年分	401,158
				流用・充当	708			
④未完了・非着手の理由		平成30年度への繰越額(単位:千円)					144,240	